

例幣使街道ウォーク

会員番号 三七四 平野登世司

一 日光例幣使街道は、徳川家康の没後、日光東照宮に幣帛（れいはく）を奉獻するための勅使が通った道である。

京都から中山道を通って、倉賀野宿で分離し、太田宿、栃木宿を通して日光西街道と楡木宿で合流して日光に至っている。

二 以前中山道と日光街道を踏破しているので、この間の倉賀野宿から楡木宿までの例幣使街道を歩くことにした。

新柄コロナウイルスによる緊急事態宣言が発令され、三密を中心にあらゆる屋外活動が制限されましたが、毎日人出のない川沿い等を歩いておりました。やがて緊急事態宣言が解除されましたが、一都三県は継続され、やっと五月二十五日全面解除されたが、引き続き屋外活動は自粛が続きました。

屋外活動が自粛されておりましたが、いつまで続くか分かりませんので、六月に入って例幣使街道を歩くことにし、関東では栃木県の感染者が一番少ないので、栃木県の楡

木宿から逆方向に歩くことにした。

三 最寄り都賀駅を六時三二分に乗車し、船橋で東武、柏、春日部、南栗橋で乗り換え、東栃木で一時間待たされ楡木駅に着いたのは十一時四十分であった。駅は無人で下車したのは他に二人の高校生だけ。駅付近は静かな田舎の風景で、歩いている方は見受けられません。

歩き始めると交通量は少なく、民家もまばらでしたが大きな家の玄関先に大きなさつきの盆栽や庭にも沢山の鉢植えがあり、少し行くとかなり広い庭一面に鉢植えがあったので、さつきの盛んな土地柄なのだと思われた。

一時間位歩いた道路沿いの庭先にビーチパラソルを広げ、丸テーブルがあったので軽食でもやっているのかと思いい、食事はできずかと聞くと、サンドイッチがありますと言うので、こうゆうこともあるのかとパンを持っていたので飲み物を注文して食べた。

歩いていることが珍しいので、何処から来たの、いつから歩き始めたの、元氣な秘訣は何ですか等と質問されてしまった。



その後変化のない街道を進むと合戦宿に入り、道路沿いの会社の前に日光例幣使街道の碑がありましたので写真に撮って、事務所に撮らせてもらいましたと声をかけたら、待って下さいと言われ何だろうと思っていると、大判の古い地図帳を持って社長さんが現れ、

地図帳の現在地を広げて説明してくれました。古いもので家並みも記入されていました。がまばらで、何代目ですかと尋ねると米穀商として十代目ですと話されました。

更に進行すると陸橋が見えてきましたが、歩道がありませんので歩行者はどうするのだろうかと思っていると、止まっていた小型トラックに年配の運転手さんが乗っていたので、陸橋に歩道が見えませんがと尋ねると、いきなり何処から来たんだ何処へ行くのだと高圧的に言われましたので、びっくりして街道を歩いているのですと話しました時に、線路の手前に階段が見えたので、分かりましたと言ってその場を離れましたが、変わった方もおるものだと思った。結局階段を上ると歩道で線路を越えて階段を降りると歩道にでた。そして線路をこえると道路や町の環境が一変して市街地化していた。

しばらく進むと新栃木駅の案内標識があったので、今日はここまでにしようと思つて、午前中に待たされた新栃木駅に歩いて十分位で行き、帰路についた。

四 一週間後に新栃木駅から前回の交差点

に行き、街道を進むとまもなく栃木市役所前に出て、市役所の表示の下に東武デパートのロゴがあり市役所とデパートが一緒のビルとは珍しいことである。



その先に街道の大型案内図、奥には公園を兼ねた施設と角に交番があり並んだ先に観光案内所があった。案内所で街道のコースを聞いて進む。Y字路を右に行き、バイパスを左折して、珍しいぶどう団地入口交差点を過ぎ

て大型商業施設がありその一角に食堂があったので昼食を食べた。その後佐野市内に入り、東北自動車道をくぐってから道を聞くと、佐野駅まではかなりあるから、今ならバスがあるのでバスで行きなよと言われてしまった。

前回と今日、翌日は栃木県群馬県共に南部の平坦な地域で、坂がなく歩きやすいが梅雨の時期とは思えなく晴天続きで、暑さが厳しく日陰がなくその点苦労した。

佐野駅を目指していたので、案内で駅方面があったので行くと、直接行けなく回り道してゆくことで、かえって大回りでロスしたこともあった。

結局駅に着いてみたら東武とJR駅は近接しているが、高低差で東武が上、JRが下であった。

駅に着いたので食事をして宿に行く予定だったので、近くの食堂に入り食事をして宿に行った。ビジネスホテルで自販機はあるが酒類はなかった。

五 朝食のため食堂に行くと、お客さんの皆さん作業服を着た方々でバイキングでした

が、大盛りの方が多く食事後はそのまま玄関を出て行かれたので、常連客が多いようで普通のホテルとは違っていた。



食事後八時に出発し、前日の駅前から市役所の角を曲がって街道に出て進みましたが、左野市街は歩道が狭く、朝のうちでしたので交通量は少なく、目新しい風景も見られなく、そのうちに郊外に出ると工場などが多くなり、続いて水田地帯となった。この日も暑さが厳しく、寺岡町のセブンイレブンの交差点を左折して行くと、水田地帯の路端にコンクリート柱に例幣使街道と掲示されていたの

が珍しかった。その先に樹木の日陰があったので小休止した。

水田地帯で遅れて田植えをしていた方に聞くと親切に教えてくれたので、その通り進み渡良瀬川を渡って街道に戻ったところで、地元の方が昔は渡船があって賑やかでした等と話されたので、そろそろ昼ですので近くに食堂がありますかと聞くと、食堂か行つて即答しなかったのをみるとないのだと判断して先に進んで行きますと、寿司屋、和食堂、中華店がありましたがいずれも閉まっていた。そのうち大通りの交差点の角にインド料理店があったので、入り内容を聞きながら注文して、椅子にかけて小休止しながら食事ができたのは良かったが、インド料理は初めてで全く好みに合わなかった。その後交差点を渡ると和食堂があり残念に思った。暑さと闘いながら進むとコインランドリーがあったので入ってみると、誰もおらずクーラーが作動して椅子があったので、暫く休憩させてもらった。足利市内では八木節会館があり踊りの矢台とかなりの広場があって、八木節の本拠地で盛んなのだという印象を受けた。



暫く水田地帯を行くと、神社があり大木の日陰があったので、入ろうとすると、鳥居のない神社として「石原加茂神社」と掲示されていた。鳥居のない神社は珍しく鳥居のない説明がありました。省略しますが太田市内に入ったことを知った。

その後踏切を渡ったので、駅は近いだろうと勝手に判断して曲がって行くと、踏切で駅

の反対側に行く道と分かり引き返したりして、太田駅の北口にたどり着いた。

新しい橋上駅で霧状の水が噴射するミストが設置されており意外な感じがしたが、タクシーの乗り場はあったが、バスの乗降場は見当たらず、不釣り合いの感じがした。

丁度浅草行きの特急が出る場所だったので、急いで切符を買って乗車したら、何両編成の列車であったかは知りませんが、乗車した車両の客は六名で、途中駅で十名くらいが乗り込んで来たが、たぶんコロナの影響でお客は少なかったのだろうと思われた。

東武動物公園、春日部で乗り換えて帰宅した。

五 一週間後に東武電車で太田に向かうと時間がかかるので、新幹線で高崎へ行き、高崎から東京駅経由の熱海行きで一駅戻って倉賀野へ行き、九時にスタートした。

駅から中山道に出て左折し、例幣使街道の案内に沿ってY字路を左折して進む。交通量は少ないが道路幅員が狭く、暫く行くと金属工業団地あったので大型車等の交通量が増えた。歩行者は少ないので気をつけて進んだ。

道路沿いの新興住宅を確認するために聞く

と、例幣使街道を知らなかった。団地で働いているのか外国人が意外に多かった。そのうちに広大な土地で外から建物も見られなかった。跡で調べてみたら「高崎量子応用研究所」であった。次に東部工業団地があり、

ここは前の団地より大型の工場等で、昼食時間となり食堂をさがし始めたがなく、団地のはずれの中華店に入り、冷やし中華を注文し飲み物を聞くとドリンクバーですと言われ、麺が堅くて、なじめなかった。

そのうちに東京福祉大学があり、校舎が新しく運動場も完備していたが、学生は登校していないようだった。

街道沿いに酒まんじゅうの店があったので、珍しいので土産に買って出ようとする、ちよっと待ってと言うので何だろうと思っ

ていると、まだありますので(太田までの距離)飲みながら行つてと缶入りのお茶を下さった。

さらに進んで行くと「子供のもり公園」があり、幼児対象の遊具がそろい、若いお父さんやお母さんが子供を遊ばせておりました

が、千葉にはなく珍しく感じた。

やがて五料橋で利根川を渡ったが川幅が広く、水量も多く波を打って流れていた。伊勢崎市に入り柴宿本陣跡と掲示されていたが、建物の中が見られなかったのが残念であった。

その後境宿を経て太田市内に入りましたが、道路環境は変わらず、周囲は畑が多くなっていた。太田駅への案内標識に沿って進行していたので、市内に入ってから右左折が多くなったような感じで、昔からこんな道順であったのだろうと思われた。

そんなことではどうかと思われた。

に到達したので、安堵した次第である。

太田駅からは浅草行きの特急に乗車して、浅草経由で帰路についた。

六 このように新型コロナウイルス禍の警戒期間中に、例幣使街道を無事歩けたことに感謝しています。